

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★★



**Data**

監督：行定勲  
出演：窪塚洋介／柴咲コウ／山本太郎

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## 👁️👁️ みどころ

在日コリアンの生き方を、高校生「杉原」を通じて描く、えらく格好いい作品。恋人の柴咲コウも可愛い。第123回直木賞の映画化で、目下上映中。おじさんも一見の価値あり。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### <在日韓国人の生き方>

これは、第123回直木賞作品「GO」を映画化したもの。2001（平成13）年10月20日に大阪で封切られたばかりの映画だ。テーマは在日韓国人（の生き方）。

だから何となく、むずかしく、くら〜い雰囲気の映画を想定してしまう。しかし、映画のポスターや予告編を見る限りでは、どうもそうではないらしい。

「これは僕の、恋愛に関する物語だ」という売り文句と、柴咲コウ（しばさきこう）という、えらい可愛い女の子が出ているので、これは観てみようと思った。

主人公の「杉原」に扮する窪塚洋介は、20歳そこそこの日本人だが、えらく格好よく、ジャパニーズコリアン青年を演じている。この作品にピッタリの雰囲気があり、好演技だ。また、脇役として、父親の山崎努と母親の大竹しのぶが、しっかりと、この作品の「下支え」をしている。いつも夢のハワイ旅行やスペイン旅行の話をしているノー天気な夫婦だが、それは単に表面ヅラ。真実は、重い重い過去をひきずりながら、自分の「国籍」のことを考え、そして我が息子の将来を見据えている。

### <ロミオとジュリエット>

シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」の中に、「おおロミオ、ロミオ！ どうしてあなたはロミオなの（略）。私の敵はあなたの名前だけ（略）。名前がいったい何だというの？ 薔薇（ばら）と呼んでいるあの花を、別の名前でも呼んでも、同じようにかぐわしい」という名セリフがある。杉原の唯一の親友で、民族学校開校以来の秀才の正一（ジョン・イル）が、「シェイクスピアを読んでみる。面白いから」と、杉原に教えて、本を手渡した。その本の中に線が引かれていた名場面で、「文学青年（？）」なら誰でも知っている有名なもの。

そして、杉原に近づく恋人、桜井（柴咲コウ）も、自分の名前（つばき）が嫌いだからといって、名前を教えない。また、杉原も、桜井が見たままの杉原を好きなのだから、ということで、在日韓国人だとは名乗らない。

### ＜在日韓国人男性と日本女性は・・・＞

しかし、初めて2人で泊まったホテル。コトをいたそうとする前に、杉原は、「実は・・・」、と「軽く」告白。しかし、それを聞いた桜井は「パンパから中国や韓国の男性とはつき合うな、と言われている・・・」。そして、一貫の終わり。実によくあるパターンだ。

お互いに好きあつていれば、名前など何でもいい・・・。国籍なんてどこでも・・・。日本人だろうが、在日韓国人だろうが、そんなことは・・・。一般論として、よく聞くセリフだ。しかし、一般論で語る「在日韓国人論」と、もしも、本当に自分の彼が、彼女が「在日韓国人」だったら・・・という現実とのくい違い一本音と建て前の違いは非常に大きい。今まで何回も描かれている悲劇のパターンだ。

この作品も、基本的にはこのパターンだが、ロミオとジュリエットの中の名セリフや、桜井の、自分の名前を教えないというスタンスがうまく「調味料」として効き、いい味付けになっている。

結局、人間はみんなあるがままの存在だけれども、みんな、その名付け方にこだわっているんだ、ということが、この映画を観れば、実によくわかる。

「オレは朝鮮人でも日本人でもない。ただの根無し草だ！」と、叫ぶ杉原の気持ちを、「わかる、わかる」という人は多いだろうが、本当にそうだろうか。実は、私自身は、このことをわかっていないと思う。なぜなら、良くも悪くも、自分がいかに自分の名前や肩書きにこだわっているか（縛られているか）ということ、よくわかっているから。そしてまた、「社会性」ということは、このことにこだわる、縛られる、ということとイコールなのだから。

この作品では、半年後、桜井は「こだわりは捨てた」と宣言し、2人は抱き合い、新しいスタートを切る。しかし、その将来は・・・。それほど簡単でないだろう。そんなことは、当事者はもちろん、映画製作者もわかっている。しかし、何とかそうありたいと思う

気持ちは、みんなに共通するもので、その気持ちがこの作品を支えているのだろう。

もっとも、多くの若い映画ファンにとっては、そんな小難しい解説をする必要はなく、ただ、杉原のカッコ良さを見るだけで、この作品の値打ちがあるのかもしれない。

2001（平成13）年10月記